

川崎市長からのメッセージ

～ 川崎市職員を目指す皆様へ ～

皆さんこんにちは、川崎市長の福田紀彦です。

まずは、川崎市に興味を持っていただいたみなさん、誠にありがとうございます。

川崎市はですね、今年、政令指定都市になってから 50 年という大きな節目を迎えると同時に、2024 年、2 年後ですけれども、川崎市市制 100 周年という、また大きな節目を迎えます。

98 年前に川崎市ができた時には、わずか 5 万人という小さな街でしたけれども、この約 100 年間の間で 30 倍以上もの人口を抱える大きな都市に発展をしてきました。

それは、私達「元祖多様性の街」と言っておりますけれども、色んなところから集まった川崎市がですね、多様な意見を持ち合って、そして様々な色があるところを重ね合わせて良いものを作り上げてきたという、そういう歴史の繰り返しだったというふうに思います。

これからも川崎市は多様性を大切にして、これからも発展を続けたいというふうに思っています。

さて、みなさんが受験をしていただくというか、興味を持っていただいた川崎市は、政令指定都市ということになりますけれども、政令市はこの一般市とは違う大きな権限を持っています。

都道府県、一般市というところから多くの都道府県の権限が政令指定都市に移譲されているということですので、ある意味、都市計画から教育、福祉、本当に幅広い分野に権限を持っているということでありまして、私達はこの基礎自治体としてどんなに大きな都市であっても市民の一番近いところで仕事をするという、その現場力とそして大きな都市であるという総合力、この2つを重ね合わせて仕事ができるという大変魅力的な都市だというふうに思っています。

ですから、今日これを観ていただいている方達にはですね、様々な職種の方がいらっしゃると思いますが、そのそれぞれに私達川崎市にはするべき仕事があるし、その将来に渡ってのミッションがあると思っています。

そういった意味で、みなさんに是非川崎市の職員の仲間になっていただいて、魅力的な、そしてチャレンジングな仕事を仲間として一緒に取組んでいきたいなというふうに思って

います。

もう職種本当様々です。私達、今地域包括ケアシステムというものを市政最重要課題として位置付けていて、全ての職員がその意識に向けて取組んでいますけれども、こういった本当に福祉の一番現場のところから、あるいは水素ですとか、あるいは臨海部の最先端の研究機関と、民間企業と一緒にやってするプロジェクトですとか、本当に様々です。

しかし、それぞれの仕事のところにみなさんの活躍する現場があるというふうに、是非考えていただきたいというふうに思います。

やっぱり、私は組織、この市長になってから8年経ちましたが、組織というものはやっぱり人だなというふうに思います。

それぞれの職員がチャレンジ精神を持って、もちろん仕事を正確にやっていく、正しくやっていくということは、これは当たり前ですけれども、ただ今に甘んじることなくこれから迎える社会について私達は行政としてどんなことができるのかということ、創造力をたくましく膨らませながら、そしてコミュニケーション能力の高い職員のみなさんが、市民

のみなさんと対話を通じてソリューションを見つけしていく、
解決策を見つけ出していく、そういう組織で私達はありたい
というふうに思っています。

是非、この現場力と総合力を持った私達川崎市の仲間のみ
なさんになっていただきたいというふうに思っています。

みなさん、是非川崎市に挑戦してください。